

西の湖における水草の現状調査

井戸本 純一

◆背景・目的

主要な淡水真珠漁場として重要な西の湖において、漁場悪化の大きな原因になっていると考えられる水草の異常繁茂の実態をモニタリングし、今後の対策研究の基礎データを得る。

◆成果の内容・特徴

- 水草が最も繁茂する9月に、西の湖内の15定点で採貝用鋤簾（間口20cm）を用いて各点につき2mの距離内（面積0.4m²）の水草を採取した。
- 1m²あたりの水草現存量（湿重量）は、最大3,925g、平均1,809gで、前年9月の最大5,300g、平均1,946gよりやや少なかったが、依然として極めて高い水準にあった。
- 水草の種類内訳は、前年と同様にオオカナダモが99%を占めた。
- 水草のほかに、リングビア属（藍藻）を主体とする糸状藻類が1m²あたり平均296g採取され、前年の108gよりも著しく増加した。

◆成果の活用・留意点

- 今後も状況の変化が予想されることから、定点におけるモニタリングを継続するとともに、西の湖全体における水草等の絶対量についても能率的に把握する調査手法を確立する必要がある。

表 西の湖における水草等の現存量(g/m²) 2005年9月22日

st.	オオカナダモ	他の水草	糸状藻類	その他の採集生物
1	0	0	0	ヒメタニシ、シジミ属
2	3,308	196	88	ヒメタニシ、カワニナ属
3	1,338	0	213	ヒメタニシ
4	1,000	0	8	ヒメタニシ、カワニナ属、タテボシガイ
5	3,925	0	740	ヒメタニシ
6	2,150	0	335	ヒメタニシ
7	2,755	0	298	ヒメタニシ、カワニナ属、タテボシガイ
8	1,820	0	394	ヒメタニシ、タテボシガイ
9	1,655	0	920	ヒメタニシ
10	1,988	0	114	
11	1,173	0	70	ヒメタニシ
12	2,730	2	827	ヒメタニシ、カワニナ属、アメリカザリガニ、ブルーギル
13	1,330	0	208	ヒメタニシ
14	300	0	39	ヒメタニシ、タテボシガイ
15	1,463	0	186	ヒメタニシ

※st.1は浚渫事業実施水域。



図 西の湖において著しく増加した糸状藻類。